

次期総合計画案に対する県議会各会派からの主な意見と対応

区分	主な意見	対応
全体	○県民や様々なステークホルダーと県の目指す姿を共有し連携していくことが必要。計画の冗長化・肥大化している部分の見直しを。	○コロナ禍や気候変動危機など新たな課題への対応を積極的に計画に位置づけたことなどにより、計画全体のボリュームは前期計画と比較してより増加しました。県民や様々なステークホルダーと県の目指す姿を共有し連携していく観点から、重複した表現や記述を再整理し、県民などがより理解しやすい内容としました。また、工程表などについても、本文と内容が重複している部分を削除するなど、冗長化・肥大化を排する見直しを行いました。
	○広く県民などが理解しやすいよう基本理念や、基本政策の一部なども見直しを。	○後期アクションプランは、概ね10年間を見据えた「静岡県の新ビジョン」の前期計画を踏まえたもの。後期計画の性格上も、10年構想のベースとなる計画の基本理念・基本政策に係る部分や全体構成を大きく変えることは困難ですが、県民やステークホルダーなどが理解しやすいように、できる限り修正(「Dreams come true in Japanの拠点」の記載、基本構想の章立て順など)を行いました。 ○基本政策に関しても、例えば、国の動きと連動して、地方創生や東京一極集中是正に資する交通インフラの整備について、新たに政策10として柱立てを行いました。
県の主体性	○県として、どのような姿勢で、何を重視して取り組んでいくのか。県の主体性を前面に出す内容に。	○「第4章 新ビジョンの基本方針」の「4 「基本理念」・「理想の姿」の具体化の方向」の冒頭に、未曾有の危機を克服し、誰一人取り残さない“ふじのくに”の実現に向けて、県が変革の主体となって、県民やステークホルダーなどとの強固な連携の下、政策の推進に注力していくこと、また、官民連携の下、脱炭素社会の実現に挑んでいくことなどを記載し、県のスタンスをより明確化しました。
数値目標 取組強化	○成果指標や活動指標が形骸化しないよう、見直しの徹底を。	○審議会意見、県議会各会派意見等を踏まえ、各部局において、 成果指標：「目標」の達成に向けた「施策」の効果を、客観的データにより定量的に示す指標であり、計画期間中に目指す「目標値」を設定 活動指標：「施策」の進捗状況を、客観的データにより定量的に示す指標であり、「施策」に位置づけた「主な取組」のうち、代表的指標を設定の観点から、再精査を行いました。
	○目標値の再精査や取組の強化を。	○御意見等を踏まえ、数値目標の見直しや取組強化に係る記述の追記などを行いました。 (医師の定着化や偏在解消、障害者雇用率、中小企業等へのDX分野の専門家派遣数などの目標値再精査、バイオマス発電の目標値の発電種類細分化やデジタルデバイド解消の具体的取組の明記、生活保護世帯の子どもの学習環境整備支援や消防職員・団員の命を守る教育の具体的明示、性の多様性理解促進における学校現場の取組追加など)
その他	○県民理解の促進を。	○本計画の30ページ程度の概要版を作成し、県民の皆様へに次期総合計画の概要をわかりやすくお届けしていくこととしました。